

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

○平成 26 年度農業農村工学会大会講演会の参加申込みについて  WEB 事前参加登録 6 月 1 日～8 月 1 日	72
○平成 26 年度「研究グループ」の助成金募集について 申請締切 6 月 30 日	73
○平成 26 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について 申請締切 9 月 12 日	73
○消費税率の改定に伴う価格の改定について	74
○学会ホームページの会員専用サイト開設に伴う著作権の扱いに関するお知らせ	74
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	75
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	75
○平成 27 年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6 月 30 日	76
○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	77
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い	77
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ	78
○第 71 回京都支部研究発表会の開催について (第 1 報)  発表締切 6 月 30 日	79
農業農村工学会論文集第 290 号内容紹介	80
学会記事	82

## 会員のみなさまへ異動情報提供のお願い

例年、4 月には転勤・卒業などで多くの会員の方々が異動されます。

引き続き学会誌を正しくお届けするため、学会に登録されている会員データに変更が生じる場合は、ご連絡いただきますようお願いいたします。

なお、学会誌を職場等で連絡委員を通じてお受取りの方は、連絡委員にその旨、お申し出下さい。

それ以外の学会誌を自宅等で直接お受取りの方は、学会事務局までご連絡下さい。

詳しくは、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/>) の **■会員について** > 個人情報の変更 (異動, 転居等) をご覧下さい。

### 第 82 巻第 5 号予定

**展望**：農業農村工学分野における技術者のともえ：森井俊広

**小特集**：農業農村工学の発展に向けた各研究部会の取り組み

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| ①応用水理研究部会：藤原正幸   | ⑧水文・水環境研究部会：高瀬恵次   |
| ②土壌物理研究部会：安中武幸   | ⑨農村道路研究部会：北辻政文     |
| ③畑地整備研究部会：川島茂人   | ⑩水土文化研究部会：広瀬 伸ほか   |
| ④材料施工研究部会：西村伸一   | ⑪資源循環研究部会：凌 祥之ほか   |
| ⑤農村計画研究部会：星野 敏ほか | ⑫農村生態工学研究部会：森 淳ほか  |
| ⑥農業水利研究部会：中村好男   | ⑬農業農村情報研究部会：溝口 勝ほか |
| ⑦農地保全研究部会：長利 洋ほか |                    |

### 技術リポート

北海道支部：育苗ハウスにおける散水リーチングの効果調査事例：野田克裕ほか

東北支部：隧道改修工事に伴うコウモリ保護施設の施工事例：村居拓道ほか

関東支部：農業集落排水処理施設における機能強化：霜田剛志ほか

京都支部：「和歌山県ため池改修加速化計画」の推進：畑下嘉和

中国四国支部：大区画圃場整備における地下灌漑システムの導入事例：岡 篤雄ほか

九州沖縄支部：宮崎県の農業からみたバイオマスの利活用：湯浅 徹

**小講座**：国土強靱化 (ナショナル・レジリエンス)：中藤直孝

**私のビジョン**：研究の新たなスタート地点に立って：伊藤祐二

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成26年8月26～29日	大会運営委員会	平成26年度農業農村工学会大会講演会 ⓑ	—	新潟市	81巻12号 82巻1,2,3,4号
平成26年11月13日	京都支部	第71回研究発表会 ⓑ	—	岐阜市	82巻4号

## 平成26年度農業農村工学会大会講演会の参加申込みについて

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成26年度農業農村工学会大会講演会（平成26年8月26日（火）～29日（金）、新潟県新潟市の朱鷺メッセで開催）の開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。

参加登録（事前登録）は平成26年6月1日から8月1日までです。

会場設備や発表プログラムの詳細等については本誌6月号（Vol.82/No.6）をご覧ください。

なお、講演発表を申し込まれた方も、別途、参加の申込みが必要です。

## 1. 開催要領

## (1) 開会式典および学会賞表彰式：

8月26日（火）13：30～

会場 朱鷺メッセ・メインホール  
（新潟市中央区万代島6番1号）

## (2) 交流会：8月26日（火）18：00～

会場 ホテルオークラ新潟『コンチネンタル』

(3) 講演会：8月26日（火）（午前中のみ実施）、  
27日（水）・28日（木）（終日実施）

会場 朱鷺メッセ

## (4) 現地研修会：8月29日（金）

新潟市内（2コース設定、詳細は本誌6月号に掲載）

（A：越後平野の排水改良と新潟県の新たな取組み見学コース、B：水理・水利用機能診断実習コース）

開会式および交流会の開始時間についてはプログラムの都合により多少前後する場合があります。会場の詳細・プログラムとともに本誌6月号に掲載します。

## 2. 参加申込み

平成26年度農業農村工学会大会専用ホームページ（2014年6月1日から8月1日まで）から参加登録（事前登録）をして下さい。8月2日以降は当日登録（8,000円）のみとなります。このホームページは学会のホームページからもリンクされます。ホームページによる登録ができず、そのほかの方法での申込みを希望する場合は、大会事務局までご連絡下さい。

## 3. 参加費用

## (1) 大会参加費用と内容

区分	事前登録（8月1日まで）	当日登録
一般	6,000円	8,000円
学生	3,000円	5,000円

キャンセルの場合、8月2日以降は50%、8月25日以降は100%のキャンセル料が発生します。

(2) 交流会参加費：一般 8,000円、学生 3,000円

(3) 現地研修会参加費：2,000円（予定）

（昼食代別1,000円予定）

## 4. 講演要旨集について

CD-ROM版講演要旨集は参加者全員にお渡しいたします。事前の送付を希望する場合は、ホームページでの参加登録時にお申し込み下さい。ただし、CD-ROM版講演要旨集の事前送付は事前登録期間（8月1日まで）にお申し込みいただいた場合のみの対応となります。

なお、講演要旨集とは別に、プログラム、学会賞受賞者紹介、全講演・ポスター発表の200字要旨などを収録した大会概要集を、大会当日受付にて参加者全員にお渡しします。

## 5. 昼食

昼食やお弁当の予約、手配はいたしません。会場近くに食堂やコンビニなどがありますのでご利用下さい。

## 6. 宿泊施設・航空券などの斡旋

宿泊施設、航空券、鉄道各社の手配については斡旋しません。あらかじめご了承下さい。

## 7. 会場までの交通案内

朱鷺メッセは新潟駅より徒歩20分となっています。また、路線バス（新潟駅万代口・佐渡汽船行き、朱鷺メッセ下車）利用も便利です。詳しくは朱鷺メッセホームページ（<http://www.tokimesse.com/>）を参照下さい。

## 8. 問合せ先

平成26年度農業農村工学会大会事務局 鈴木哲也

〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐2の町8050

新潟大学農学部生産環境科学科

TEL：025-262-7395 FAX：025-262-7395

E-mail：suzuki@agr.niigata-u.ac.jp

## 平成 26 年度「研究グループ」の助成金募集について

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則 1 件 20 万円程度、3 件以内です。

本年度の申請締切は、平成 26 年 6 月 30 日（月）ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式（学会ホームページ参照）で研究委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

### 「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 配布：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

(ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

(ハ) 「研究グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が 2 つ以上あること。

(ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締め切り日に 40 歳未満であること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究グループ」は助成金配布後 1 年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注 1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり 1~2 ページに収まるようにまとめること。

注 2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

## 平成 26 年度「戦略的研究申請支援」の助成金募集について

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60 万円程度（原則 1 件 20 万円以内）です。

本年度の申請締切は平成 26 年 9 月 12 日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長宛にお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

### 「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成金の配布グループと金額を決定します。なお、この決定内容は学会長に報告します。
3. 配布：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研

究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」として助成金を配布する。ただし、その配布は原則として 1 年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先します。

4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。

(イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。

(ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として 3 名以上、それらの所属する機関が 2 つ以上あること。

5. 活動報告：助成金を配布された「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後 1 年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

## 「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：平成 26 年 9 月 12 日（金）

申込先：戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：tkiku@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- (1) WG 名（または部会名） (2) 代表者名・所属  
 (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名（仮）  
 (5) 研究の目的と内容（500 字程度）  
 (6) 研究資金申請応募先（予定）

## 消費税率の改定に伴う価格の改定について

平成 26 年 4 月 1 日から消費税率が 5% から 8% に改定されたことに伴い、農業農村工学会においても、下記のように改定することといたします（いずれも消費税込価格）。会員の皆様のご理解をお願いいたします。

## ●定期刊行物（学会誌・論文集・PWE 誌）

		改定後	改定前
学会誌	1 冊	1,204 円	1,170 円
	非会員年間購読料	14,448 円	14,040 円
論文集	1 冊	2,725 円	2,650 円
	会員年間購読料	8,175 円	7,950 円
	非会員年間購読料	16,350 円	15,900 円
PWE 誌	年間購読料（正・名誉会員）	12,343 円	12,000 円
	年間購読料（学生会員）	8,743 円	8,500 円

バックナンバーの販売も消費税率を 8% とした販価とする（送料別途）。

## ●出版物の販売価格

販売しているすべての図書について、消費税率を 8% とした販価とする（本誌英目次裏および 43 ページ掲載の図書目録参照）。

## ●別刷・その他の取扱い

		改定後	改定前
学会誌	超過ページ 1 ページ	10,800 円	10,500 円

別刷	1 部	83 円	80 円
別刷表紙	1 編	3,189 円	3,100 円
論文集	投稿料 1 編	16,458 円	16,000 円
	超過ページ 1 ページ	18,864 円	18,340 円
	J-STAGE 登載料 1 編	4,114 円	4,000 円
別刷（表紙付）	30 部	16,776 円	16,310 円
	50 部	18,864 円	18,340 円
	100 部	20,962 円	20,380 円
別刷（規定外）	1 部	308 円	300 円

## ●技術者継続教育機構（CPD）

		改定後	改定前
CPD 利用料 <sup>注</sup> （個人）	年間	4,114 円	4,000 円
	（学会員の場合）年間	2,571 円	2,500 円
CPD 登録料（個人）			
	（登録初年度のみ）	1,029 円	1,000 円
CPD 取得証明書発行費	1 通	1,029 円	1,000 円
CPD 利用料（法人）	年間 (A)	514,286 円	500,000 円
	年間 (B)	308,572 円	300,000 円
	年間 (C)	102,858 円	100,000 円
	1 研修 (D)	30,857 円	30,000 円

注）その年度の 6 月 1 日現在における CPD 個人登録者数が 30 人以上の所属機関において CPD 利用料を一括納入する場合は、一人当たりの納入金額から年額 100～500 円を割引きます。

## 学会ホームページの会員専用サイト開設に伴う著作権の扱いに関するお知らせ

当学会では、2014 年 4 月よりホームページに会員専用サイトを開設いたしました。

会員専用サイトは会員番号とパスワードにより利用することとなりますので、ホームページ上からご登録下さい。コンテンツは順次作成してまいりますので、当分の間は試行期間として一般公開いたします。

なお、会員専用サイトには既刊の学会定期刊行物の報文、写真などをコンテンツとして使用しております。

既刊の学会定期刊行物の著作権につきましては、学会誌 77 巻 11 号（2009 年 11 月号）の会告において委譲のお願いをしているところではありますが、改めて周知のため、以下のとおり再掲載いたしますので、ご了承下さい。

（以下、学会誌 77 巻 11 号会告より再掲載）

「農業農村工学会誌等」既刊の学会定期刊行物の  
電子アーカイブ化に伴う著作権委譲に関する告知（お願い）  
学会誌編集委員会・論文編集委員会

会員ならびに著者各位

農業農村工学会（以下「当学会」という）は、昭和 4 年の学会設立以来、定期刊行物として学会誌を、また昭和 35 年に論文集を、さらに昭和 57 年には英文誌を刊行して参りました。80 年の長きにわたりこれら定期刊行物を刊行できましたことは、ひとえに会員各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

当学会ではこの度、既刊の学会定期刊行物を独立行政法人科学技術振興機構の電子アーカイブ事業における対象候補誌に込

募し、対象誌として選定されました。

対象誌一覧

農業土木研究 1巻1号(1929)～32巻8号(1965)

農業土木学会誌 33巻1号(1965)～75巻6号(2007)

水土の知：農業農村工学会誌

75巻7号(2007)～76巻12号(2008)

Journal of Irrigation Engineering and Rural Planning

1号(1982)～30号(1996)

Rural and Environment Engineering

31号(1996)～44号(2003)

農業土木研究、別冊 1号(1960)～11号(1965)

農業土木学会論文集 12号(1965)～249号(2007)

農業農村工学会論文集 250号(2007)～258号(2008)

この電子アーカイブ事業とは、国内の学協会が発行する学術雑誌(ジャーナル)を電子データ化し、同機構のインターネットウェブサイト上で公開するものです。

これに当たっては、電子化された論文などはすべて同機構のサーバに保存されるため、対象誌すべての論文などの著作権が当学会に帰属していることが条件となります。

学会誌等の電子アーカイブ化に当たっては、著作権法により、掲載された論文などの著者からその著作権(複製権、公衆送信権を含む)の許諾または譲渡を必要とします。

現在は投稿要項等に論文などの著作権が当学会に帰属することが定められておりますが、投稿要項内に著作権規程を定める以前に掲載された論文などについては、著作権の委譲が明確にされていない状態となっております。

これらの事情からこの機会に、創刊号以来の著作についても著作権を当学会に帰属していただくことと致したく、本来であれば会員ならびに著者の皆様お一人ずつに「著作権の許諾手続き」を行うべきではございますが、当該告知をもって著作権の譲渡をお願い申し上げる次第です。

万一、この件に関しましてご了承いただけない場合、あるいはご不審の点がある場合は、2009年11月30日までに当学会事務局に文書または電子メールでお申し出下さい。当学会は、このお知らせが著者の皆様の目に触れることを前提としておりますが、何らかの事情でこの件をお知りになる機会がなかった場合には、期限を過ぎましても、あらためて個別にご相談させていただく所存です。なお、お申し出のない場合には、ご了承いただけたものとし、電子アーカイブとして公開する時期が参りました段階で、論文などを掲載させていただきたいと存じますが、公開後の会員ならびに著者の皆様からの記事取り下げ要求に際しても柔軟に対応させていただきます。

また、前述のとおり、創刊号以降の全巻全号の電子アーカイブ化に当たって当学会にすべての冊子が所蔵されていないと確認された場合には、あらためて会員ならびに著者各位に対して該当冊子の寄贈をお願いする場合がございますので、その際には何卒、会員および著者各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

社団法人農業農村工学会事務局

E-mail : suido@jsidre.or.jp

☎ 03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しております。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社) 農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま安価に取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌

「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 CPD を取

得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい!!

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

### 1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

### 2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

### 3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信(事前にWeb利用登録が必要)

### 4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例:学会誌11月号掲載の問題は12月末日が解答期限)

### 5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2CPDを、7~9問正解で1.5CPDを自動登録

(正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。)

### 6. 自動登録の時期

取得したCPDは、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

## 平成27年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成27年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

### 趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連続と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含む景観の美しさを再評価いただき、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

### 記

### 1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物:先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

### 2. 対象巻号

学会誌第83巻(平成27年1~12月号)

### 3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。(四つ切りワイド、A4サイズも含まれます)。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき20MB以下とし、形式はJPEGのみに限定します。

### 4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

### 5. 締切

春季 平成26年6月30日

夏季 平成26年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限り

### 6. 審査

審査委員会(編集委員と写真家)で選考

### 7. 結果発表

学会誌第83巻第1号で採用作品と掲載号を

発表し、採用作品は平成27年度全国大会会場で

パネル展示します。

### 8. 謝礼

採用作品には規定の賞金(1点につき3万円)

をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用

となった応募者には記念品をお送り

します。

### 9. 「Cover History (表紙写真由来)」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History (表紙

写真由来)」をご執筆いただきます。詳細は、採用決定時に

応募者に直接お知らせ

します。なお、些少ですが原稿料をお支払い

します。

### 10. 使用権

採用作品の使用権は(公社)農業農村工学会に

属します。

### 11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真である

か、表紙写真の質として耐えうるかということ

を重視します。具体的には、農業施設・

構造物の形状や機能が、その写真から十分に

読みとれること(花などの情緒物に埋没しない

こと)が採用の条件となります。

### 12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロード

し、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、

電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、

撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称(固

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

公益社団法人 農業農村工学会

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 82 巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 縮 切 A4判 (1,500字以内)
82 巻 5 号 農業農村工学の発展に向けた各研究部会の取組み	公募終了
6 号 大会特集号(京都支部)	公募なし
7 号 農業農村整備事業における再生資源の利活用(仮)	公募終了
8 号 農業農村整備事業における気候変動への対応および貢献(仮)	公募終了
9 号 これからの“むらづくり”と“まちづくり” —グローバル時代におけるローカル・コミュニティの創造—(仮)	4月15日
10 号 農地の集積と大区画化が目指すもの(仮)	公募なし
11 号 歴史的農業水利施設・水遣いの保全と継承(仮)	6月16日
12 号 農業水利施設の長寿命化・耐震化対策技術(仮)	7月15日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

採用された原稿の分量は、刷り上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

82 巻 9 号テーマ「これからの“むらづくり”と“まちづくり”

—グローバル時代におけるローカル・コミュニティの創造—(仮)

一村一品運動にみる特産物の開発、グリーン・ツーリズムや都市農村交流による地域活性化など、全国各地でユニークな“むらづくり”や“まちづくり”が進められてきました。しかし情報化とグローバル化が進む現代社会においては、さらにその一歩先、すなわちそれぞれの地域が個性を保ちつつ国際社会とも対峙できるようなコミュニティを形成していくことが求められているのではないのでしょうか。また、そのようなローカル・コミュニティの創造には、経済的な観点にとどまらず暮らしの風景や環境とのかかわりなど、農業農村整備が得意とする網羅的な観点からアプローチすることが求められるのではないで

しょうか。

そこで本小特集では、“ローカル・コミュニティの創造”に果たす農業農村工学や農業農村整備事業の役割、農村計画学や社会学からみた今後の“まちづくり・むらづくり”に関する論考、また、地域活性化に IT や情報化を採り入れた事例報告、暮らしの風景や環境とのかかわり、地域資源の利活用、農業農村整備事業・土地改良施設等を活用した地域振興など、グローバル時代を踏まえた“新たな地域づくり”に関する原稿を募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

ンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが 1.025 と高く、モ

① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)

- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)

- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

出版社: Springer-Japan 社

発行スケジュール: 年4回

購読料: 正会員・名誉会員 12,343 円 (平成 26 年度より)

学生会員 (院生含む) 8,743 円 (平成 26 年度より)

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012年1月から2014年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2014年4月に Vol.12, No.2 が発行されます。

本ジャーナルは 2009 年 12 月より、トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルは IF=1.025 と高い評価を得ています。

また、世界 14 カ国から Editor (23 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年 4 回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員で PWE 誌の購読者に限りませんが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局は日本です。  
投稿先: オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用下さい。

編集事務局: Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581 Fukuoka, Japan

TEL: +81-92-642-2909 FAX: +81-92-642-2914

E-mail: [yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp](mailto:yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp)

編集方針: 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の

多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑転換等である。

編集体制

・ Editor-in-Chief: Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)

Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

・ Editors 14 カ国から 23 名

・ Editing Board 26 名

・ Managing Editors

Chief Management Editor: Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Jin Yong CHOI

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Korea

Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

出版社: Springer-Japan 社

投稿資格: 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等: <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

第 71 回京都支部研究発表会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 研究発表会

日時 平成 26 年 11 月 13 日 (木) 10:00~17:00

場所 ホテルグランヴェール岐山

〒500-8875 岐阜市柳ヶ瀬通 6-14

TEL: 058-263-7111 (代)

2. 情報交換会

日時 平成 26 年 11 月 13 日 (木) 18:00~20:00

3. 現地研修会

日時 平成 26 年 11 月 14 日 (金) 9:00~16:00

4. 研究発表申込み

研究発表者は、投稿原稿に先立ち、6 月末日までに、①表題 (仮題でも可)、②発表者名、所属、年齢、③連名者名、所属、年齢、④希望発表部門 (水理、水文・気象、土壌物理、土質力学、応用力学、材料・施工、施設管理・更新、灌漑排水、農地造成・整備・保全、農村計画、環境保全、生態環境、地震・その他)、⑤発表者の連絡先電話番号、⑥発表者のメールアドレスを簡条書きにしたメールを下記の発表申込先・石川県立大学藤原宛にご送付下さい (件名を「京都支部発表申込み」として下さい)。メールアドレスをお持ちでない場合は CD (txt ファイル) を郵送下さい。ただし、発表者は学会員に限らせていただきます。

投稿原稿に関する詳細な要領は 6 月号を参照して下さい。

5. 発表申込先

〒921-8836 石川県野々市市末松 1-308

石川県立大学生物資源環境学部 藤原洋一

TEL: 076-22-7479

E-mail: yfuji@ishikawa-pu.ac.jp

6. 申込期限

(1) 発表申込み 平成 26 年 6 月末日

(2) 原稿締切り 平成 26 年 7 月末日

(3) 参加申込み 平成 26 年 8 月末日

7. 問合せ先

岐阜県農政部農地整備課内

第 71 回農業農村工学会京都支部研究発表会 開催地事務局

担当 若山、桐本

TEL: 058-272-1111 (内線 3169, 3189)

FAX: 058-278-2701

E-mail: c11431@pref.gifu.lg.jp (農地整備課所属メール)

wakayama-yukihito@pref.gifu.lg.jp

kirimoto-makoto@pref.gifu.lg.jp

農業農村整備事業における  
景観配慮の手引き



目次

- 第 1 章 手引きの目的
- 第 2 章 農村景観の特徴と農業農村整備の展開方向
- 第 3 章 農村景観の保全、形成の基本的な考え方
- 第 4 章 景観配慮対策の進め方
- 第 5 章 調査
- 第 6 章 計画
- 第 7 章 設計、施工及び維持管理
- 用語集
- 引用文献・参考文献
- 検討の経緯
- 参考資料

A4判 163ページ  
定価 3,291円  
(税込・送料学会負担)

申込先 〒105-0004 港区新橋5-34-4  
公益社団法人 農業農村工学会  
☎ 03-3436-3418 FAX 3435-8494